

南半球の旅

高岡市 老子 美智子

昨年9月、国際農村医学会に同伴させて戴き“自然の宝庫”と言われるニュージーランド、オーストラリアへ訪れた。南半球にある両国は日本の季節とは逆で春花爛漫。ヨーロッパに似た放牧風景と、多くの美しい自然が見られた。

ニュージーランド南島

(クライストチャーチ)

- わが頭上 桜並木は 淡紅の
雲なくて九月の 青空を占む
『ハグリー公園』
- エイボン川に 沿ひてゆく道 青く炎え
枝垂柳の 瀧となりてゆる
- ガーデン・シティの河畔の芝生に這ひ上る
水鳥と遊ぶ 春日差すなか
- 都市の真なか 緑広がる 丘の上
オペリスク1基 宙に入り立つ
- 乳母車 ボディーに掛けて 走るバス
夕光染むる 橋を徐行す
- 開会式に のぞむ身急ぐ 歩をとめて
花時計の刻に わが針合はす
- 黄昏の ものの薄きを 噴水塔
花ひらくがに 灯に明らめる
- 一念に 索しあてたる 南十字星^{サザンクロス}
無欲となりて 仰ぐ西空

学会の余暇に一日、クライストチャーチの南東、バンクス半島にあるアカロア港を中心とした、リゾートの町を訪ねた。フランス系の移民によって開拓されたアカロアは、美しい田園風景を展開、フランス風の建物や教会

等が残っており、しっとりとした情調を味わわせてくれた。

- カンタベリー 平野見放くる 丘の斜面^{カタリ}
曇まるるエニシダ 黄花耀ふ
- 望洋と 青草覆ふ 丘の波
身は竹ちつくす 漂ふごとく
- 碧き湖 青き草原 身に足らひ
眼つむれば日本の 壊死の海また土
- 丘陵に 抱かれし入江 貨物船の
荷役の人ら 日向に憩ふ
- フランスの 色濃く残る アカロア町
廃家に移民の 吐息聴こゆる
- 母羊に乳求め寄る 子羊ら
風に波打つ 牧草のなか
- 青明る 芝生の上を 放羊の
遊ぶ昏れどき 身も紛れたし

前日より雨模様の空を眺めて、マウント・クック見学へ出発。機下より見る氷河末端の堆積丘が迫力を見せる。

- 氷舌を のばす氷河の 幾筋が
樹林に白く 見ゆ機下にて
- 雨のためセスナ機が飛ばず、山荘のハーミテージに中食をとり、パッションなど異国のフルーツを食べながら窓外の景色を眺めていた。
- マウントクックのあたり一刻 雲晴れて
連なる銀嶺に 言葉を呑みつ

タウンホールでの学会も終り、都会的な北島、オークランドへ渡る。アグロドームで羊の毛刈や牧羊犬のデモンストレーションを見学。昼食の後、あたりを散策していると、青芝の

なかに巨木の切株が炭化したまま黒ぐろと残っている。多分このあたりは昔、密林地帯で後に焼き払ったものであろうか。

- バーベキューの 匂ひただよふ 芝丘に
珍種の石楠花 彩鏡ひ咲く
毛刈りされし 羊芝生に 陽を浴びて
肌しろじろと 軀の小さし

北島のほぼ中央部にある温泉と湖、マオリ文化の町、ロトルアに着く。

ニュージーランド南島（ワイトモ鍾乳洞）

- ツチボタル 観むと木舟に 洞をゆく
水上ひそかに 昏は閉ぢ
- 洞のなか 岩つらら石筍 林立の
幽閉は闇の おもさもちるる
- 息殺し 見る洞天に 群光の
ホタル静けき 華麗を展く
（養鱒場“レインボー・スプリングス”公園）
- 風たちて 原生林の 羊歯類が
くろく拒否なす 葉枝のそよぎ
- 翼なす 大羊歯群の なか歩む
現身は青き 滴とならむ
- 退廃の 翅なきままに 国鳥と
なりてキーウィ 観衆を寄す
（ファカレワレワ）
- 地熱地帯 踏みゆく現身 近ちかと
地面左右に 泥湯はね上ぐ
- 三十米も 噴き上ぐる蒸気 吾をつつみ
冗なすとき 言葉吹き切る
- 硫黄臭 ただよふ部落 湯の池に
マオリ女集ひ 濯ぐ者炊く者
（マオリ族）
- 伝説の 恋の人形 彫刻門
黙せるものは 表情をもつ
（「地獄門」）
- 悲恋の民話 ききて見上ぐる 女男の像
清純見する かたき抱擁
- 習はしの 古きをみする 人喰檻
柵の汚れに 遠世を顕たす

- 無防備の 背を見せて行く マオリ村
夕焼け血いろに 部落をば染む
- 恐ろしさ 可笑しさ見する 刺青の
その面まことを 湛へて踊る
- マオリ・ママ 唄ふソプラノ 澄みわたり
夕べかなしく 身を縛してくる

オーストラリア（シドニー）

- おだやかな緑の国を後に、世界三大美港の一つ、シドニーを訪ねる。坂道の多い街を行くと欧風式の（レース模様）テラス・ハウスが並ぶ。港の方に行き、春の日差に浮き立つ純白の、オペラ・ハウスを見学し、浜辺へ向う。
- ボンダイの 浜に下りきて 砂を踏む
この身は小さし 潮風のなか
 - この潮の 流れの彼方 わが国や
茫洋となす オセアニアの海
 - ちぎりたる ユーカリの若葉 嗅ぎながら
コアラ住みゐる 園の奥処へ
「タロンガ動物園」

キャンベラ（戦争記念館）

- 戦火の海 すぎて飾られし 潜航艇
くろく光りて ひしひし責むる
- 潮のごと 飛び征きし兵の 日章旗
戦ひし国の 記念館のなか
- こころ燃え 結びし糸玉の 千人針
わが亡却の 怖る目前に
- 須臾の間の 別れ言ひ征き 散りし兵か
若き写絵 異国に飾らる
- 土地土地に 別れ重ねて 旅をゆく
メルボルンの空に 夕日は沈む
- オセアニアの 春を身内に 帰国せし
成田街道 秋ふかみゐる

15日間の南半球の旅を農村医学会員の方々と、御一緒させて戴き、土地土地を重ねることに感じ得るものが多々ありました。心より嬉しく存じております。